

一一〇一二年度・学力考查問題【国語】

(中学第二回)

注 意

- 一、試験時間は50分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は11ページで〔一〕・〔二〕・〔三〕の三題あります。開始の合図で必ず確認し、そろつていないう場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。
また、特に指示のないかぎり、句読点も一字に數えます。

——線あうおのひらがなを漢字に直しなさい。

の場所にさ」

佐奈とまゆが顔を見合わせてくすぐすと笑った。

「廃墟^{アラフ}&スペイン語——って書いてあつたの。ウケるでしょ」

「廃墟つてなんだよ、つて感じ。自分が特別だとでも思つてんのかな」

「しかもさあ、なんでスペイン語なんだつーの！」

「佐奈がおかしさを隠しきれないという感じで、かん高い声を出す。

「頭はいいらしいけど空氣読めんし」

まゆの言い方がどんどんキツくなる。

……うん。わかる。

藤原さんにイラツとするのも、悪口を言い出すと止まらないのも。

私だつて、アミと仲の良かつた時は、他の子の悪口を言つたことが

ある。

炭酸を飲んだ時に似ていた。ちょっとだけでやめようと思つても、

甘くて、スカツとして、止められない。

「ねえ、土曜日の午後、部活休みだから、佐奈の誕生日会やろうつて

言つてるんだ。本当は来週の火曜日なんだけど、ちょっと早めにみんなでお祝いしようつて」

まゆが私の両肩にポンと手を置いた。

²えつ……土曜日は誘われてるつて言つたよね？

……そつか。だから、誘つてるんだ。

まゆは誘つてくれただけなのに、真正面から強い風におおられたみたいに息苦しくなつた。

ここで「うん」つて言わなきや、嵐^{あらわ}はもつとひどくなるんだろう。

「ねえ、なんでいちかが『廃墟』つて呼ばれとるか知つとる？」

中学に入学してすぐに不登校になつた「私」は、父の仕事の関係で佐渡島に引っ越し、島の中学に通いはじめました。

アミ：小学校時代の親友。「私」の一言で仲たがいした。

・いちか（藤原さん）：何かに集中すると周りが見えなくなる性格。

クラスの中で距離^{きょり}を置かれている。

・佐奈・まゆ：転校してきた「私」に初めて声をかけてくれ、その後

も何かと話しかけてくれるクラスメイト。

・アミ：小学校時代の親友。「私」の一言で仲たがいした。

【登場人物】

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

- 1 きゅうきゅう車を呼ぶ。
- 2 さいしんの注意を払う。
- 3 会社のぎょうせきが悪化する。
- 4 しふくを肥やす。
- 5 大学でこうぎを聞く。

ここで「うん」って言わなきゃ、私はまた一人になってしまっかも
しない。

むしろ、私としゃべるのは、自分にとつて損だ、自分を不幸に巻き込まないで、と思っているのがわかる。

自分につめを立ててひつかきたいくらい、^{*1}アミに言つたひとことを悔やむ。

胃が縮むような感覚がして、私は小六の卒業式のことを思い出した。
私が入っていたアミたちのグループが集まつて、校庭で写真を撮つていた。

さつさと帰ればよかつたのに、なぜかその場から動けなくなり、風景を眺めるようにみんなが撮影するのを見つめていた。

撮影が終わると透明で厚い壁^{こうへい}ができたみたいに、みんな私をスルーして校門を出て行く。

「じゃ、あとでねー」

「アミ、待ち合わせ何時だつたつけ？」

「だから、二時じやなくて、二時半ね！」

ふいに、グループの一人と目が合つた。やべつという顔をするとき、彼女はすぐに視線をそらして、アミに話しかけた。

「何歌おつかなー？」

「もう泣ける歌はやめよーね」

カラオケの相談をしながら、名札に花をつけたアミたちが見えなくなるまで、私はその場に立ち尽くしていた。

あのメンバーと、また、同じ中学校へ行く。

そう思うと、もうこのままどこかへ消えてしまいたい思いにかられた。

だつて、だれも、私を必要としていない。私としゃべりたいと、思つていいない。

ここで、みんなに、合わせればいいんだ。
私が嫌われているわけじゃない。藤原さんが嫌われているんだから。藤原さんのために、またひとりぼっちになるなんて、耐えられない。心も体も空っぽになつて、その中を乾いた砂が風に吹かれて通りすぎていつて、砂すらもなくなつて、ザラザラとした感触だけが残つてゐるような、あんな気持ちにだけは、二度と、なりたくない。

「……うん、じゃあ、私も行つていい？」

言つてしまつたあと、胃から何かがせり上がりてくるような気がした。

母の意見に同意できないのに、無理やり「はい」と言わされた時と同じ、苦くて重いものが。

（大丈夫、大丈夫）

³スカートに両手をこすりつける。

「やつた！」

佐奈とまゆがハイタッチして、私もそれに加わった。

二人がはしゃぐ声がすぐそばで聞こえているのに、遠く感じた。

私は嵐をさけて、どこに行こうとしているんだろう？

そこは、本当に、安心できる場所なんだろうか？
わからないわからないわからないわからない……。

OKの返事をしたのに、私の心の中で嵐はどんどんひどくなつて
いつた。

帰宅するとすぐに、^{※2}カフエコーナーをのぞいた。

さつこちゃんはおばさん一人組と、「人生フルーツ」のチラシを見
ながら談笑していた。

まさか、また藤原さんが来てるつことはない……よね？
おそるおそるブックコーナーをのぞくと、すらりとした背中が見え

た。

うわ、また来てる！

本当は、そのまま自分の部屋へ行きたい気分だった。でも、土曜日
に行けなくなつたと言わなきやいけない。

「藤原さん」

思いきつて声をかけると、藤原さんはゆっくりと顔を上げた。白い
紙をはさみで切つていて。

「何やつてるの？」

「サグラダファミリアのポップアップカード、私も作つてみたいと
思つて」

テーブルの上には、小さな白い紙片が散乱している。藤原さんの手
元を見ると、カフエに飾つてあつた立体カードとそつくりなサグラダ
ファミリアが完成しつつあつた。

「わ、すごい」

藤原さんはカードにメガネがくつくんじやないかと思うくらい顔
を近づけると、はさみの先端を使つて最後の仕上げをした。

「できたあ」

藤原さんは、小さい子がママに見せるみたいに、私にカードを広げ
てみせた。精巧なサグラダファミリアがゆつくりと立体的に浮かび上
がつてくる。

「わあ……」

小さな窓がいくつも細かくていねいに切り抜かれ、鋭い塔が何本も
建つている。

「すごい……！見本なしで作ったの？」

「うん。頭の中に、もうイメージはできてたから」

藤原さんは角度を変えながらカードを眺めて、頬を赤くした。

「サグラダファミリアって……スペインにあるんだよね？」

「うん。二〇二六年に完成する予定なんだって」

「えっ、まだできていないの？」

「うん……ガウディが亡くなつてから百年後に完成予定なんだつて
……。でも、このカードは完成後をイメージして作つてみたんだ」

藤原さんはカードをうれしそうに眺めると、ふ一つとため息をついた。

「ああ、完成する前にスペインに行つて、本物を見てみたいなあ」

「えっ、完成する前がいいの？」

「造つている途中を見たいの。そして、完成した姿も……」

熱に浮かされたように早口で言う藤原さんの横顔は白く光つて、な

せかきれいに見えた。

藤原さんが切った紙や厚紙を掃除すると、下からサグラダファミリアの本とノートが出た。

「サグラダファミリアって……まだでいいのに、廢墟みたがな感じもするね」

「うん。だから……好きなのかもしねな」

藤原さんがうなずきながら、ノートを⁴自分の方へ引寄せた。

ノートの表紙には「español」と書いてあった。

「これ……もしかしてスペイン語?」

藤原さんの表情が⁵曇る。

——「なんでスペイン語なんだつーの!」

はき捨てるような佐奈の言葉を思い出した。

「もしかして、そのノートでスペイン語、勉強してるの?」

「う、うん……。やっぱり少しは読み書きしたり、しゃべれるように

なつたりしてから行きたいって思つて」「すいこ……」

「……勉強は嫌いじゃないけど……学校に行くと疲れる。古い建物を

見たり、こういうのを作つたりしとる方が、私は、楽しい」

⁵ 藤原さんの顔は学校にいる時と全然違つて、輝いている。

「ノート、見せてある? いざこ」

【はじめまして】

Mucho gusto! (マーチョ グスト)

Mucho gusto! Mucho gusto! Mucho gusto!

【私はいちかです】

Soy Ichika. (ハイ イチカ)

Soy Ichika. Soy Ichika. Soy Ichika. Soy Ichika. Soy Ichika.

Me llamo Ichika. (メ ハヤモ イチカ)

Me llamo Ichika. Me llamo Ichika. Me llamo Ichika.

「へねり……」

全然きれいにまとめられてなんかいない。

蛍光ペンを引いたり、線で囲つたりもな。

ひたすら、スペイン語を書きなぐつている。ノートの裏に、うつる

へねり。

でも、本当に、スペイン語を身につけたいと思つて、氣迫が伝わつ

てくれる。

私も……なんぶつに勉強したいと、なかつたな。

ただただ、テストの点数を取るためにだけだつた。志望校に合格するためだけの勉強だつた。

藤原さんは、一人の時間を、前に進むことに、自分の夢のために使つてゐるんだ。

私はひとり⁶おひには耐えられないと思つて、約束をやぶらうとしているのに。
⁷ やっぱり……藤原さんとの約束を優先した。

でもやっぱ思つただけで、またあまると胃が縮む気がした。

(高田由紀子『君だけのシネマ』P.H.P出版社より)

※1 アミに言つたひとこと…中学受験まで三か月間学校を休むよう母に強要され苦しんでいた時、アミが気遣つてくれたのに「……るせえんだよ！」と怒鳴つてしまつたこと。

※2 カフェコーナー…佐渡島で住むことになつた祖母（さつこちゃん）の古い家は、映画好きの祖母がカフェコーナーやブックコーナーを併設（へいせつ）した映画館に改築している途中である。

※3 サグラダファミリア…スペインの教会で、建築家アントニ・ガウディの未完成作品として有名。

イ 私を誕生会に誘いたいというよりも、私を藤原さんから引き離すことで、彼女をいつそう孤立させようとしているのだということ。

ウ 転校してきたばかりの私を誕生会に誘うことで歓迎（かんげい）し、また参加する人数を増やして少しでも盛大な会にしようとしているのだということ。

エ 転校してきたばかりなので、私が仲間外れを恐れて断らないと知つたうえで、誕生会を口実にグループに取り込もうとしているのだということ。

問一 線1 「空氣読めんし」とあります、「これは「藤原さん」

のどのような点を言つたものですか。最も適当なものを次のAから選び、記号で答えなさい。

- A 頭の良さを何気なく自慢（じまん）する点
B あまり自己主張（じひしやう）をしない点
C 人の悪口（あくぐ）を言うと止まらない点
D 周囲と合わせようとしない点

問二 線2 「……そとか。だから、誘つてるんだ」とありますが、

「私」は「まゆ」のどのような意図（いと）に気が付いたのですか。最も適当なものを次のAから選び、記号で答えなさい。

- A 私が土曜日に藤原さんと出かける約束（よく）をしたことを知つたうえで誕生会に誘い、私を困らせようとしているのだということ。

問三 線3 「スカートに両手をこすりつける」とありますが、

「」での「私」の気持ちの説明として最も適当なものを次のAから選び、記号で答えなさい。

- A 今までと同様、自分の意に反することにたやすく同意（とうぎ）してしまつた自分を情けないと思っている。
B 二人には行くと返事をしたものの、藤原さんとの約束（よく）を破（おち）らうとする自分が許せないでいる。

ウ 約束（よく）を破りたくはないが、とりあえず二人に合わせておくほうが得策（とくさく）だと自分に言い聞かせている。

- エ 本心（ほんじん）から言つた言葉（ごんば）ではないので、それを佐奈（さな）とまゆに見破られないかと不安（ふあん）に思つてゐる。

問四——線a・b「嵐」とあります、それらが表すものとして

適當なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 佐奈とまゆへの不快感

イ 自分の本音を知られてしまうあせり

ウ 自分の意にそぐわない言動をとることへの不安

エ 藤原さんがいじめられることへの懸念けねん

オ 仲間外れになることへの恐れ

問五——線4「ノートをさつと自分の方へ引き寄せた」・6「ノー

ト、見せてもらつていい?」とありますが、それらの説明として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 藤原さんはスペイン語に興味のない私にノートを見せてもどうせわからないだろうと思ったが、私は学校で教わらないスペイン語を彼女が独学でどうやって勉強しているのかぜひとも知りたかった。

イ 藤原さんは私にからかわれることを気にして見せたくないと思っており、私もその気持ちに感づいてはいたが、彼女がどのくらいスペイン語を身につけているのか試してみたいという興味の方がまさつた。

ウ 藤原さんはスペイン語が好きだという秘密を私に知られることを警戒けいかいしたが、私は彼女が夢に向かっている自分の努力を誰かに分かつてほしがつてはいるのではないかと察し、さらには話を聞きたいと思った。

問六——線5「藤原さんの顔は一輝かがやいている」とあります、「私」は「藤原さん」のどのような点についてそう感じたのですか。

ア いねいに説明しなさい。

問七——線7「やつぱり……藤原さんとの約束を優先したい」とあります、「私」がそのように思った理由として最も適當なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 学校にいる時とは別人のように輝いている藤原さんを見て、自分らしく輝くためには学校で教わる事だけで満足すべきではないということに気が付いたから。

イ 自分の意志で夢に向かって努力をする藤原さんを見ているうちに、仲間外れになることを恐れずに自分の気持ちにそつて行動したいと思つたから。

ウ 誰に何を言われようと自分の気持ちにうそをつかない藤原さんの強さにふれ、彼女といつも一緒に行動することでもつと多くのことを学びたいと望んだから。
エ 学校に居心地いじごちの悪さを感じながらも自分を曲げない藤原さんを見て、自分も他人の悪口を言う佐奈やまゆに対してもつきりと注意をするべきだと決意したから。



次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

19世紀の中ごろに、アフリカで歐米の探検家が初めてゴリラに出くわしたとき、ゴリラのオスがドラミングをするのを見て腰をぬかすほど驚いた。ゴリラが攻撃してくると思って、思わず銃の引き金を引いたのだ。そして、ゴリラが戦い好きの恐ろしい動物だと探検記に描き、そのイメージが一般に広がってしまった。おかげでゴリラは獰猛で危険な猛獸というレッテルをはられ、100年以上も厳重な檻に入れられて動物園に展示されることになったのである。その誤解が解かれたのは、20世紀の後半になって野生のゴリラの調査が始まつてからのことである。ドラミングはじつは自己主張であつて、戦いの宣言ではなかつたのだ。

人間の世界でも自己主張は難しい。主張しすぎると相手にきらわれるし、主張しなければ相手に無視される。相手の関心を引き出し、相手にきらわれないためにはどうしたらいいか、わたしたちはいつも悩んでいる。¹ゴリラのような胸たたきがあつたらいいのに、と思うことがある。胸たたきは、相手とちようどいい距離をとつて自己を主張し、相手の関心と反応を引き出すとてもいい手段なのだ。人間は胸をたく代わりに、言葉を投げかける。でも、言葉は意味を伝えるので、かならずしも自分の正直な気持ちが伝わるとは限らない。言葉が誤解され、相手を傷つけてしまつたり、相手の怒りを買うことになつたりする。人間は言葉を持つたために、便利なこともできただけれど、かえつてややこしいことも抱え込んだんだなあ、とつくづく思う。

ゴリラを見ていて、とても驚いたことがある。^{※2}シルバーバックのオス同士がけんかをしたとき、子どもたちがオスたちにしがみついて何かを止めたのである。おかげで、シルバーバックたちは深い傷を負わずに引き分けることができた。こんな光景はサルでは見たことがなかつた。

ゴリラの調査をする前につきあつていたニホンザルでは、おとなのオス同士の争いに子どもたちが割つて入ることはない。だつて、自分より力の強いサルを止めようとしたら、逆に反発されて自分が傷つく恐れがある。だから、けんかに割つて入つて止めるのは、群れの中でもつとも強いオスザルであることが多い。

サルがほかのサルのけんかに参加するやり方は、とても合理的だが、わたしはちょっとずるいと思う。²サルたちがけんかを始めるとなみな勝ちそうなサルに加勢するのだ。サルの間にはどのサルが強いか弱いかを認め合う順位があつて、それをどのサルも熟知している。だから、けんかが始まると、周囲のサルはどちらが強いかを知つていて、強いサルに味方して弱いサルを攻撃する。勝ち負けを早く決めたほうがけんかは長引かずにつむからだ。たまに、ふだん弱いサルが力を増して勝ちそうになると、今度は手のひらを返したように周囲はそのサルに加勢する。負けたサルはしつぽを巻いて逃げ去り、勝ったサルと順位は逆転する。でも、こういった変動が起こると、群れ全体がざわざわと不安定になり、あちこちでいざこざが起つたりする。サルたちはそういう騒ぎを避けたいので、なるべく順位に沿つて勝ちそうなサルに加勢するのである。

でも、わたしにはそんなサルたちのやり方が弱い者いじめに見えて

しまう。サルたちは強い弱いという順位の秩序を守ることが群れの安定をもたらすとして、勝ちそうなサルに味方するのだろう。人間はちがう。人間は平等意識が強く、体が大きいからといって上に立てるわけではない。体の大きい者も小さい者も、みんな平等につきあうことができるのが人間の社会だ。サルのように勝ちそうなほうに味方するのは、ひきょうなやり方だと思う。だから、サルの社会は人間とはちがうと思っていたらし、ゴリラもサルのように強いゴリラがいばつてゐるんだろうと予想していた。

ところが、ゴリラはちがつた。けんかをしても、体の小さなゴリラは^a敢然と大きなゴリラに向かっていく。メスの体はオスの半分ぐらいしかないので、オスに憤然として歯向かう。しかも、ゴリラには負けを認めるような表情がない。サルにはグリメイスという、歯をむき出す、一見人間の笑いに似たような表情がある。弱いサルが強いサルにおびやかされたときに見せる表情だし、けんかに負けると決まつてこの表情を示す。すると、勝つたサルはそれ以上攻撃することはせずに、自分の強さを見せつけるように肩を怒らせ、しつぽを上げて立ち去る。

チンパンジーにもグリメイスがあるが、ゴリラはない。けんかに負けると低くうなつて体を丸くしてうずくまるだけだ。これはそれ以上の攻撃から身を守る姿勢だ。あるいは金切り声を上げて、周囲の助けを呼ぶ。すると、その声を聞きつけて、周囲のゴリラはゴツゴツと非難の声を発し、けんかがエスカレートしそうになるとみんなが割つて入る。

その場合、割つて入ったゴリラたちは、けんかをしているどちらのゴリラにも加勢しない。ここは、わたしの感心したところだ。ゴリラ

の仲裁は、どちらかに加勢して勝ち負けをはつきりさせてけんかを終わらせるのではない。けんか自体を止めることが目的なのだ。けんかをしているゴリラたちも勝敗をつけずに、メンツを保つたまま引き分けられる。そもそもゴリラの集団では、サルのような強い弱いといつた順位がない。もちろん、体の大きさにはちがいがあつて、それに応じて力の強さには差がある。でも、それを表面に出してつきあわず、たがいに対等であろうとするのがゴリラの社会の特徴なのである。

そんなゴリラの仲裁を見ていて、気がついたことがある。「勝とう」とすることと「負けまい」とすることはちがうということだ。

ニホンザルは勝ち負けを重視して、勝者に味方する。ゴリラは勝ち負けをつくらずに、けんかを止める。どちらを重視するかによつて社会のつくり方がちがうのだ。ニホンザルは強い弱いがはつきりしたX、ゴリラはだれもが同じようにつきあおうとするYをつく。争い事をどうやつて解決するかによつて、社会のあり方はちがつてくるのである。

さて、わたしたち人間はどちらの社会に住んでいいのだろう。日本にも「虎の威を借る狐」ということわざがある。強い者の力を借りていばることをいう。サルの勝者びいきは、強い者にこびて弱い者をやつつけようとするのだから、このことわざに近い態度だろう。それはあまり感心しない行為だと考えられている。だとすれば、ゴリラの態度のほうが人間のめざす社会に近いのではないだろうか。

でも、気になることがある。どうも最近の日本社会では、勝つことばかりが礼賛されるようになつてはいだろか。親たちも子どもが勝つことを奨励して、学校の成績やスポーツの結果に一喜一憂する。

でも、子どもにとつて勝つことがじつは友達との関係をこわすことに、親たちは気づいていない。勝つためには、サルのように相手を屈服させ、相手に負けを認めさせねばならない。それに傷つき、恨みを抱いた仲間は去っていくかもしれない。でも、ゴリラのように「負けない」ことを目標にすれば、相手はメンツを保つたまま引き分けることができる。仲間を失うことなく、かえつてけんかによつて相手をよく知ることにつながる。

人間の子どもたちもおそらくだれもが、ゴリラのように負けたくないと思っている。でも、周囲が勝つことを奨励するので、勝とうと努力した結果、友達を失つて孤独になつてゐるのではないだろうか。あるいは負けたくない思いが高じて、勝ち組についていじめに加わることになつてはいなかろうか。勝敗にこだわらず、ゴリラのようになんかを止めることに注意を向けるようにすれば、たがいに対等につきあえるのになあと思う。

(山極寿一『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』

家の光協会より)

問――――線 a 「敢然と」・ b 「憤然として」・ c 「エスカレート」

とありますが、ここで意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a 「敢然と」

ア 我を忘れて

イ 思い切つて

ウ ためらいながら

エ 仕方なく

b 「憤然として」

ア 深く考えない様子で

イ あやしみ驚く様子で

ウ ひどく腹を立てる様子で

エ 泣きさけぶ様子で

c 「エスカレート」

ア 激しくなること

イ 複雑になること

ウ 決着がつくこと

エ 勢いよく始まること

※ 1 ドラミング：ゴリラが両腕で自分の胸をたたく動作。

※ 2 シルバーバック：成熟したオスのゴリラ。背中に銀色に見える白い毛を生やしていることから、こう呼ばれる。

※ 3 礼賛：素晴らしいものとして、ほめたたえること。

問二——線1 「ゴリラのような胸たたきがあつたらいいのに」と

あります、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 言葉とちがつて、胸たたきによる自己主張は、内容が単純であることが多いため、誤解を生む可能性がないから。

イ 言葉よりも胸たたきのほうが、簡単な方法ではあるが複雑な内容をくわしく正確に伝えることができるから。

ウ 胸たたきとちがつて、言葉の使用は、相手との関係を複雑にするので、自己主張の手段として不便でしかないから。

エ 胸たたきは、言葉とちがつて、適切な距離を取りながら相手と向き合うことができる自己主張の手段だから。

問三——線2 「とても合理的だが、ずるいと思う」とあります

が、筆者がこのように思うのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のなかから選び、記号で答えなさい。

ア 勝ちそうなサルに加勢するやり方は、けんかを早く終わらせ、群れの安定を保つためには良いことだが、それが弱い者

を群れからけ者にするにもつながっているから。

イ 群れの秩序を安定させるために、強いサルを勝たせようとすることは理解できるが、いつでも勝ちそうなほうの味方をするという態度は、平等なものには見えないから。

ウ 群れにおける、強弱の順位の秩序を安定させるために必要なこととはい、弱いサルをいじめて、決して勝てないようになることは、ひきょうなやり方にも思えるから。

工 群れにおける上下関係をけんかの勝敗によって決めること

は、一見公平なやり方に見えるが、実際には、けんかを始める前から強い弱いの順位は決まっているから。

問四——線3 「ところが、ゴリラはちがつた」とありますが、「けんか」が起こったときの「サル」と「ゴリラ」のちがいについて、

ていねいに説明しなさい。

問五 X・ Yに入る言葉として、最も適当なものを次のなか

らそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 地域社会

イ 対等社会

ウ 未開社会

エ 階層社会

オ 成熟社会

カ 自由社会

問六

——線4 「わたしたち～住んでいるのだろう」とあります
が、筆者の考え方について説明したものとして最も適当なものを
次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 最近の日本社会には、実力で強いか弱いかの順位が決まる
点で、サルの社会と同じように公平なシステムがあると言え
るが、勝ち負けをつけずに平等な集団生活を実現させている
ゴリラの社会を目指すべきである。

イ 最近の日本社会は、弱い者いじめをしてでも勝者であろう
とする者が多いという点で、サルの社会と共通しているが、
むやみに勝ち負けをつけようとせず、誰もが安心して暮らせ
るゴリラの社会を手本とするべきである。

ウ 最近の日本社会は、サルの社会のように勝つことにこだわ
るあまり、相手を傷つけたり新たな問題を招いたりすること
があるが、平和的な問題解決を目指すゴリラの社会を理想と
するべきである。

エ 最近の日本社会には、「強い者＝正義」が、「弱い者＝悪」
を倒そうとするという、サルの社会と同じような傾向がある
が、お互いに尊重しあおうという意識が共有されているゴリ
ラの社会を見習うべきである。

〔国語〕

解答用紙（中学第一回）

問
六

問
四
a

b

問
五

二

問
一

問
二

問
三

一

(あ)

	あ ゆ う き ゆ う
--	-------------

(い)

	ぎ い し ん
--	---------

(う)

	ぎ ょ う せ き
--	-----------

(え)

	し ふ く
--	-------

(お)

	こ う ざ
--	-------

受 驗 番 号

氏 名

得 点

三

問

一
a



b



c



問

七



問

二



問

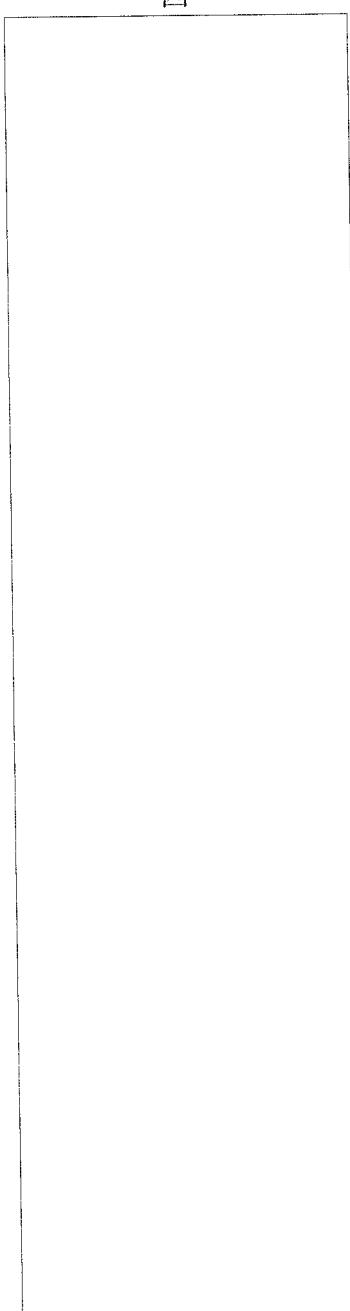
三



問

問

四



問

五
X



Y



問

六

